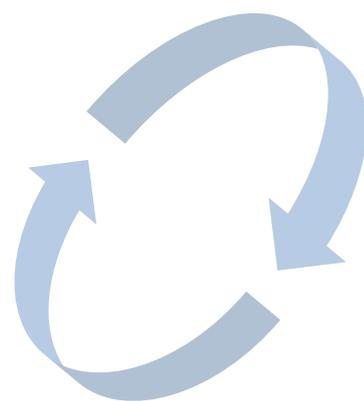


# 考え合い表現し合う 社会科の指導

第5学年



## 目次

はじめに ……………	1
相手意識をもち、地図を用いて国土の位置や広がりを表現する活動 ……………	2
緯度と標高の高低差による気候の違いから問題意識をもつ活動 ……………	6
問題意識をもち、米づくり農家の仕事の意味を考えながら調べる活動 ……………	10
日本の水産業に対する疑問から学習問題をつくり、予想から学習計画を立てる活動 ……………	14
単元の学習をキーワードで振り返り、自動車生産における工夫や努力をまとめる活動 ……………	18
自動車の海外生産増加について、グラフから問題意識をもって調べる活動 ……………	22
グループで複数の資料をもとに日本の工業生産の強みと課題を共有し、考えを深める活動 ……………	26
複数の資料を比較・関連付け・総合し、多面的に社会的事象を捉え、考えを深める活動 ……………	30
情報の伝達と影響について学習の見通しがもてる活動 ……………	34
調べる視点を明確にして表にまとめることで、様々なメディアの特色を考える活動 ……………	38
発信者・受信者の立場で、情報の活用のあり方考える活動 ……………	42
自然災害への対策を比較・分類することで、防災や減災について考えをまとめる活動 ……………	46

## はじめに

第5学年の社会科は、国土学習であり、産業学習であり、情報や防災など最新の社会事象を扱う学習でもあります。また、本格的に教科書や地球儀、地図帳、統計資料などを使う学習でもあります。そのため、内容・方法ともに、学習との距離感が生じやすく、児童の興味・関心の差も激しくなる傾向があります。教師もまた、しかりであるといえます。そこで、考え合い表現し合う学習活動を成立させるためには、①既習を大いに活用する。②本質を損なわない範囲で、数値などを具体的な事例に置き換える。③いつも地図帳を手元に置き、位置などを確認する。④算数科と連携して度量衡、百分率を早期に使えるようにする。⑤新聞などを用い、社会事象に関心をもたせる。そうしたことが大切になります。

問題解決的な学習過程に基づいて留意点を示すと、「つかむ」段階では、資料の提示方法を工夫して疑問を出させ、同時に疑問に対する答えを予想させます。そして、疑問から学習問題を、予想から学習計画をつくるなど、解決の見通しを立てさせます。この段階では、桜の開花時期や魚の値段の「違い」などに着目させると効果的です。

「調べる」段階で最も大切なことは、闇雲に書かせないことです。まず、自分自身で資料を読み取らせませす。それをもとに友達と話し合って意味を考えさせます。そして終末では、調べて分かったことを小まとめとして書く、図や表にする、キーワードにするなど、調べっ放しにしないことが肝要です。

「まとめる」段階では、もう一度学習問題に立ち返り、問題に正対する答えを出すようにします。その際、各時間のキーワードを一覧にしたり、図式化したりすると、問いに対する答えとして適切な形にまとめやすくなります。

大單元ごとに位置付く「深める」段階では、小単元の学習を振り返り、よりよい社会のあり方などを発展的に考えさせます。その際、新たな資料を投入したり、グループで教科書やノートを持ち寄り、小単元のまとめを突き合わせたりすることなどが有効です。

教科書を活用する上で大切なことは、その特質をつかむことです。①教科書に何が、どんな形で掲載されているかを読み取ります。特に、本文は、全ての児童が具体的な意味を理解し、自分の言葉で表現できるまで教材研究を行うことが大切です。②教科書には、学習指導要領が求めている以上の内容が記載されていることが多いので、学習指導要領をもとに、指導の時間と内容の軽重をつけることも必要です。③教科書の内容は、あくまでも一つの事例です。学習問題や学習計画など、授業者と学級の実態に合わせた形に応用して、考え合い表現し合う学習を実現していきたいものです。

この企画では、上述のような留意点をふまえつつ、教科書を活用しながら考え合い表現し合う活動を充実させるにはどうすればよいかを考え、提案しています。日々の授業の参考にしていただければ幸いです。

考え合い表現し合う社会科の指導（第5学年）編集委員会